



J.LEAGUE™ NEWS



© J.LEAGUE PHOTOS

2ndステージ第3節では1stステージ優勝の浦和レッズと、2ndステージ開幕2連勝のサンフレッチェ広島が対決。し烈なタイトルレースを予感させる白熱の攻防を繰り広げた

2015明治安田生命J1リーグ2ndステージ開幕

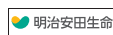
すでに浦和レッズがJリーグチャンピオンシップ出場権獲得。ライバルも追撃で激戦は必至

2015明治安田生命J1リーグ2ndステージが7月11日に開幕した。11月22日まで続く2ndステージが終了すると、いよいよJリーグチャンピオンシップが開催される。年間王者の座が懸かる同チャンピオンシップには、すでに1stステージ優勝の浦和レッズが出場権を獲得。引き続き2ndステージ優勝、年間勝点1位を狙えば、ライバルも虎視眈々とステージ優勝、あるいは年間勝点1~3位となってチャンピオンシップ出場を目指す。さらに2015Jリーグヤマザキナビスコカップ、AFCチャンピオンズリーグ2015は準々決勝以降の佳境を迎え、第95回天皇杯全日本サッカー選手権大会も始まるなど、シーズン後半は興味深い試合がめじろ押しだ。(2ページに関連記事)

J.LEAGUE™ TITLE PARTNER



J.LEAGUE™ TOP PARTNERS



J.LEAGUE™ 100 YEAR VISION PARTNER



LEAGUE CUP SPONSOR



SUPER CUP SPONSOR



J.LEAGUE™ OFFICIAL EQUIPMENT PARTNER



J.LEAGUE™ OFFICIAL BROADCASTING PARTNER



SPORTS PROMOTION PARTNER



J.LEAGUE™ OFFICIAL TICKETING PARTNER



J.LEAGUE™ ASSOCIATE



シーズン後半戦に突入。 興味深い試合がめじろ押し

明治安田生命 J1リーグは、いよいよクライマックスに向けて戦いが過熱する。各チームが目指すのは、年間王者を決めるJリーグチャンピオンシップへの出場権獲得。下の図①のように、最大で5チームが参加可能となるチャンピオンシップへ、すでに出場を決めているのが1stステージ優勝の浦和レッズだ。

浦和に続くチャンピオンシップ出場争いはどのようなものか、下の「2015 Jリーグチャンピオンシップ シミュレーション」で確認しておこう。ここでは2ndステージ第3節終了時点の順位を、同ステージ最終順位と仮定してみる。両ステージの勝点を合計して決まるのが、仮の年間順位である。それによると、1stステージ優勝の浦和が年間勝点1位で、2ndステージ優勝とするサンフレッチェ広島が同2位。同3位はFC東京で、浦和と広島の出場資格が重複するため、チャンピオンシップ出場は

3チームとなり、図②のような形で実施される。

もちろん、今後の各節の結果によって、このシミュレーション上に登場するチームは変化し、出場チーム数次第でチャンピオンシップのパターンも変動する。さらに年間勝点による残留争いも絡み、数多くのファン・サポーターに一喜一憂の日々が訪れそうだ。

リーグ戦以外にも8強が決まっている2015 Jリーグヤマザキナビスコカップ決勝トーナメント、来年元日の決勝を目指す第95回天皇杯全日本サッカー選手権大会と、重要な試合が並行して行われる。

一方、柏レイソルとガンバ大阪が勝ち進んでいるAFCチャンピオンズリーグ2015も注目される。12月には3年ぶりに日本でFIFAクラブワールドカップが開催されることもあり、アジアチャンピオンとして世界のひのき舞台へ出場権をつかむことが期待される。



2ndステージで好調の広島をけん引する佐藤寿人



佳境を迎える戦いにチームを勇気づけるファン・サポーターの熱い声援は欠かせない(松本平広域公園総合球技場)

2015 Jリーグチャンピオンシップ シミュレーション

1stステージ順位

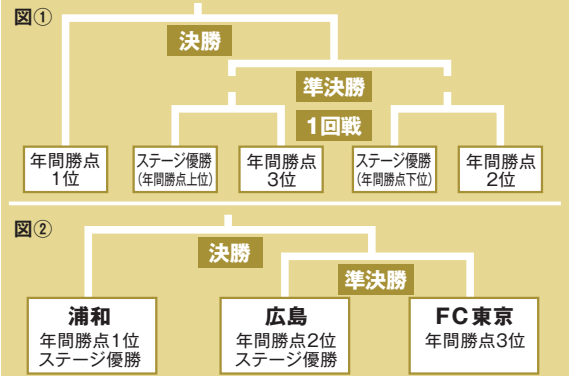
順位	チーム	勝点	得失差
1	浦和レッズ	41	22
2	FC東京	35	6
3	サンフレッチェ広島	34	13
4	ガンバ大阪	32	11
5	川崎フロンターレ	30	6
6	横浜F・マリノス	26	4
7	ベガルタ仙台	23	7
8	鹿島アントラーズ	22	2
9	名古屋グランパス	22	0
10	湘南ベルマーレ	22	-4
11	サガン鳥栖	20	-10
12	ヴァンフォーレ甲府	20	-10
13	ヴィッセル神戸	19	-2
14	柏レイソル	18	-3
15	松本山雅FC	15	-9
16	モンテディオ山形	14	-10
17	アルビレックス新潟	14	-13
18	清水エスパルス	13	-10

2ndステージ第3節終了時点の順位

順位	チーム	勝点	得失差
1	サンフレッチェ広島	9	8
2	ヴィッセル神戸	7	6
3	柏レイソル	6	1
4	川崎フロンターレ	4	1
4	ヴァンフォーレ甲府	4	1
6	名古屋グランパス	4	0
6	ガンバ大阪	4	0
8	サガン鳥栖	4	0
9	浦和レッズ	4	0
9	FC東京	4	0
11	鹿島アントラーズ	4	-1
11	湘南ベルマーレ	4	-1
13	モンテディオ山形	3	0
14	アルビレックス新潟	3	-2
15	松本山雅FC	3	-5
16	横浜F・マリノス	2	-1
17	清水エスパルス	2	-5
18	ベガルタ仙台	1	-2

年間順位 (2ndステージ第3節終了時)

順位	チーム	勝点	得失差
1	浦和レッズ	45	22
2	サンフレッチェ広島	43	21
3	FC東京	39	6
4	ガンバ大阪	36	11
5	川崎フロンターレ	34	7
6	横浜F・マリノス	28	3
7	ヴィッセル神戸	26	4
8	鹿島アントラーズ	26	1
9	名古屋グランパス	26	0
10	湘南ベルマーレ	26	-5
11	ベガルタ仙台	24	5
12	柏レイソル	24	-2
13	ヴァンフォーレ甲府	24	-9
14	サガン鳥栖	24	-10
15	松本山雅FC	18	-14
16	モンテディオ山形	17	-10
17	アルビレックス新潟	17	-15
18	清水エスパルス	15	-15



2ndステージ第3節終了時点で得点ランキング首位に立つG大阪の宇佐美貴史



2ndステージに備え戦力強化のチームも(柏から移籍した神戸のレアンドロ)

年間スケジュール(8月以降)

	8月	9月	10月	11月	12月
明治安田生命 J1 LEAGUE	[2nd 第1~7節]			Jリーグチャンピオンシップ ~11/22(日) ●●①② 1回戦11/25(水) 決勝①12/2(水) 準決勝11/28(土) 決勝②12/5(土)	
2015 Jリーグ ヤマザキナビスコカップ	準々決勝 ①② ①9/2(水) ②9/6(日)		準決勝 決勝 ①② ★ ①10/7(水) 10/31(土) ②10/11(日)	Jリーグアウォーズ ★12月開催	
明治安田生命 J2 LEAGUE	[第1~42節]			~11/23(月・祝)	
明治安田生命 J3 LEAGUE	[第1~39節]			~11/23(月・祝)	
AFC CHAMPIONS LEAGUE	準々決勝 ① ②		準決勝 ① ②	決勝 ① ② ①8/25(火) or 8/26(水) ②9/15(火) or 9/16(水) ①9/29(火) or 9/30(水) ②10/20(火) or 10/21(水) ①11/7(土) ②11/21(土)	
スルガ銀行チャンピオンシップ 2015 OSAKA	★ 8/11(火) (万博)		FIFA クラブワールドカップ ジャパン 2015 12/10(木)~12/20(日) (横浜国・長居)		
その他の大会	第95回 天皇杯全日本サッカー選手権大会 8/29(土)~2016/1/1(金・祝)				

2014年度Jクラブ経営情報開示

JリーグはJクラブ経営の透明性向上のため、クラブ別の個別経営情報を発表している。2014会計年度分は7月22日に発表。ここでは発表内容の一部を掲載した。

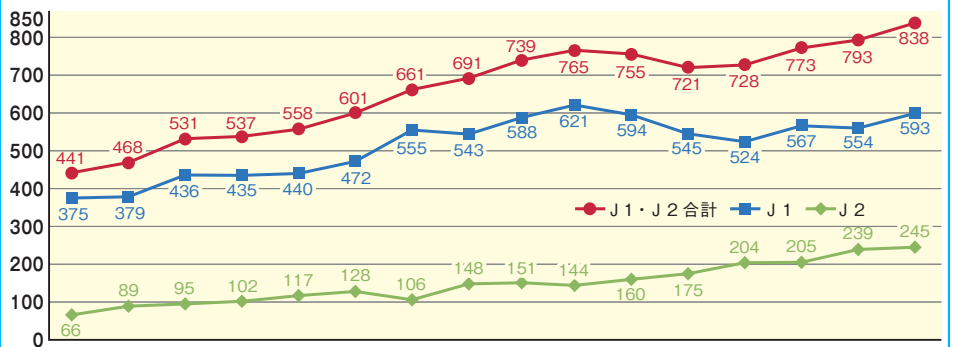
1. 2014シーズンの主なトピックス

- 「Jリーグクラブライセンス交付規則」(J1・J2クラブライセンス交付規則の財務基準のうち、3期連続赤字または債務超過の場合はライセンス不交付となる規定)の猶予期間が終了。
2016シーズンのクラブライセンス判定において、財務基準(3期連続赤字・債務超過)が初適用となる。
- J1・J2において3期連続赤字、債務超過のクラブがゼロになった。
- J3リーグが開幕。
J3リーグに入会した結果としての2014年度決算数値が初めて公表となる。

※愛媛の決算修正に伴い、昨年発表した資料から数値が一部変更になっている部分があるので注意

2. J1・J2クラブの営業収入(売上高)の合計

40クラブの収入の総合計は過去最高の約838億円。



単位: 億円
()内はクラブ数

3. 決算数値(J1・J2・J3クラブ合計)の概要

前年比+約50億円の事業規模拡大

- ・J1・J2・J3合計で営業収益は前年比約54億円増加。同時に営業費用も約52億円増加した
- ・広告料収入の伸びが収入規模の拡大に寄与した

	J1合計(18クラブ)			J2合計(22クラブ)			J3合計(11クラブ)			J1+J2+J3合計(51クラブ)		
	2013年度	2014年度	前年比	2013年度	2014年度	前年比	2013年度	2014年度	前年比	2013年度	2014年度	前年比
営業収益	55,400	59,300	+3,900	23,944	24,570	+626	2,055	2,979	+923	81,399	86,848	+5,449
広告料収入	25,502	28,747	+3,245	11,723	11,753	+29	1,184	1,700	+516	38,409	42,199	+3,790
入場料収入	12,479	12,212	▲267	3,944	3,970	+25	143	265	+122	16,566	16,446	▲119
Jリーグ配分金	3,942	3,904	▲38	2,157	2,121	▲35	69	131	+62	6,168	6,156	▲12
アカデミー関連収入	2,852	3,031	+179	1,598	1,429	▲169	227	310	+83	4,677	4,770	+94
その他収入	10,625	11,406	+781	4,524	5,297	+773	434	572	+138	15,582	17,275	+1,693
営業費用	55,196	59,495	+4,298	24,418	24,302	▲115	2,219	3,236	+1,018	81,833	87,033	+5,201
チーム人件費	25,017	27,103	+2,086	10,286	9,832	▲453	740	1,065	+325	36,043	38,000	+1,958
試合関連経費	4,698	4,548	▲150	2,059	2,059	▲0	118	217	+99	6,875	6,823	▲51
トップチーム運営経費	5,340	5,996	+656	3,095	2,961	▲134	322	423	+101	8,757	9,381	+624
アカデミー運営経費	2,026	2,080	+55	1,040	1,010	▲30	107	161	+54	3,173	3,251	+79
女子チーム運営経費	159	176	+16	107	128	+21	12	16	+4	278	320	+41
販売費および一般管理費	17,956	19,593	+1,637	7,830	8,312	+482	920	1,353	+433	26,706	29,258	+2,552
営業利益	204	▲195	▲398	▲473	267	+740	▲164	▲257	▲93	▲433	▲185	+248
営業外収益	460	376	▲84	290	264	▲26	54	112	+58	804	752	▲52
営業外費用	110	102	▲9	35	101	+66	10	13	+3	155	215	+60
経常利益	553	79	▲474	▲217	431	+648	▲120	▲158	▲38	216	352	+136
特別利益	1,007	2,428	+1,421	246	152	▲94	2	3	+1	1,255	2,584	+1,328
特別損失	22	178	+156	25	58	+33	0	8	+8	47	244	+197
税引前当期利益	1,538	2,330	+792	3	524	+521	▲118	▲163	▲45	1,423	2,691	+1,268
法人税および住民税	262	405	+142	255	82	▲173	2	5	+3	520	491	▲28
当期純利益(損失)	1,276	1,925	+650	▲251	443	+693	▲120	▲168	▲48	905	2,200	+1,295

※数値は、各クラブの百万円単位の金額を単純合計したものであり、端数処理の関係で、合計数値が一部、一致しないところがある

4. 3期連続赤字・債務超過クラブ

2014シーズンのJ1・J2クラブの財務状況

	2012年度	2013年度	2014年度	該当クラブ(2014年度)
単年度赤字	13	12	8	仙台、水戸、千葉、横浜FC、甲府、岐阜、C大阪、鳥栖
3期連続赤字	6	5	0	なし
債務超過	9	11	0	なし

※2期連続赤字: 鳥栖
(2015年度決算が赤字の場合、3期連続赤字)

2014シーズンのJ3クラブの財務状況

	2013年度	2014年度	該当クラブ(2014年度)
単年度赤字	5	5	YS横浜、金沢、藤枝、鳥取、琉球
債務超過	1	2	秋田、鳥取

※2期連続赤字: 藤枝、琉球
(2015年度決算が赤字の場合、3期連続赤字)

5. 営業収益(売上高)の推移

2014年-2011年度比較(37クラブ) 増収28クラブ、減収9クラブ。
3年前と比較可能な37クラブで、約90億円の営業収益が増加。

[J1]	(単位: 百万円)	[J2]	(単位: 百万円)														
	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2011年度
仙台	2,097	2,303	2,429	2,249	+152	札幌	1,297	1,347	1,071	1,328	+31						
鹿島	4,165	4,160	4,122	4,003	▲162	山形	1,239	1,047	1,041	1,399	+160						
浦和	5,382	5,353	5,786	5,854	+472	水戸	436	483	508	518	+82						
大宮	2,775	3,344	3,228	3,422	+647	板木	748	791	876	941	+193						
柏	3,543	3,551	3,412	3,165	▲378	群馬	562	496	469	555	▲7						
FC東京	3,334	3,865	3,545	3,859	+525	千葉	2,422	2,408	2,330	2,300	▲122						
川崎F	3,275	3,073	3,214	3,359	+84	東京V	1,075	1,470	1,236	1,220	+145						
横浜FM	3,463	3,717	4,315	4,590	+1,127	横浜FC	1,046	1,054	1,152	1,042	▲4						
甲府	1,465	1,179	1,481	1,518	+53	湘南	670	869	1,191	1,121	+451						
新潟	2,227	2,405	2,548	2,748	+521	松本	-	893	939	1,185	-						
清水	3,118	3,449	3,084	3,248	+130	富山	574	599	701	735	+161						
名古屋	4,196	3,993	4,226	4,042	▲154	磐田	3,151	3,391	3,298	3,027	▲124						
G大阪	3,817	3,285	2,786	3,863	+46	岐阜	448	528	576	831	+383						
C大阪	2,527	2,618	3,213	3,771	+1,244	京都	2,140	2,039	1,930	1,761	▲379						
神戸	2,059	2,250	1,960	2,471	+412	岡山	797	878	1,034	1,103	+306						
広島	2,676	3,176	3,198	3,149	+473	讃岐	-	-	-	584	-						
徳島	967	1,050	1,211	2,104	+1,137	愛媛	499	504	522	576	+77						
鳥栖	689	1,454	1,704	1,885	+1,196	福岡	1,246	854	871	947	▲299						
合計	51,775	54,225	55,462	59,300	+7,525	北九州	521	682	686	747	+226						
						長崎	-	-	718	894	-						
						熊本	631	678	680	750	+119						
						大分	960	986	1,406	1,006	+46						
						合計	20,462	21,997	23,236	24,570	+1,445						

※J1・J2の所属は2014シーズン
黄色マーカーの年度は別のリーグ(J1⇄J2)所属を表す

6. チーム人件費の推移

2014年-2011年度比較(37クラブ) 増加25クラブ、減少12クラブ。
チーム人件費が約33億円の増加。

[J1]	(単位: 百万円)	[J2]	(単位: 百万円)														
	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2011年度
仙台	1,007	1,079	1,169	1,141	+134	札幌	513	495	359	430	▲83						
鹿島	2,066	1,888	1,701	1,562	▲504	山形	706	459	468	463	▲243						
浦和	1,886	1,910	2,016	2,054	+168	水戸	152	205	203	235	+83						
大宮	1,314	1,787	1,606	1,720	+406	板木	332	338	410	292	▲41						
柏	1,919	2,047	2,118	2,059	+140	群馬	204	184	163	168	▲36						
FC東京	1,427	1,574	1,637	1,709	+282	千葉	1,003	1,038	994	1,065	+62						
川崎F	1,587	1,428	1,557	1,546	▲41	東京V	300	369	357	346	+46						
横浜FM	1,441	1,601	1,701	1,765	+324	横浜FC	478	490	482	493	+15						
甲府	671	476	707	759	+88	湘南	511	366	530	452	▲59						
新潟	809	940	1,077	1,085	+276	松本	-	284	368	443	-						
清水	1,376	1,281	1,251	1,354	▲22	富山	246	264	273	299	+53						
名古屋	2,167	2,009	2,348	2,053	▲114	磐田	1,299	1,437	1,369	1,352	+53						
G大阪	2,010	1,707	1,486	1,815	▲195	岐阜	192	212	241	503	+311						
C大阪	1,185	969	1,212	1,680	+495	京都	895	591	692	695	▲200						
神戸	1,010	1,157	1,160	1,348	+338	岡山	363	389	411	499	+136						
広島	1,324	1,412	1,449	1,349	+25	讃岐	-	-	-	180	-						
徳島	490	489	601	927	+437	愛媛	206	238	255	257	+51						
鳥栖	353	610	1,012	1,176	+823	福岡	428	411	390	417	▲11						
合計	24,042	24,364	25,809	27,103	+3,061	北九州	222	259	249	284	+62						
						長崎	-	-	229	335	-						
						熊本	257	254	261	276	+19						
						大分	293	298	556	349	+56						
						合計	8,600	8,581	9,287	9,832	+274						

※J1・J2の所属は2014シーズン
黄色マーカーの年度は別のリーグ(J1⇄J2)所属を表す

2014 (平成26)年度 Jクラブ個別情報開示資料

(単位: 百万円、▲: 損失)

クラブ名	J1																				J1 総合計	J1 平均	
	仙台	鹿島	浦和	大宮	柏	FC東京	川崎F	横浜FM	甲府	新潟	清水	名古屋	G大阪	C大阪	神戸	広島	徳島	鳥栖					
決算月	2015年1月期	2015年1月期	2015年1月期	2015年1月期	2015年3月期	2015年1月期	2015年1月期	2015年1月期	2015年1月期	2014年12月期	2015年1月期	2015年1月期	2015年1月期	2015年1月期	2014年12月期	2015年1月期	2015年1月期	2015年1月期					
1. 損益総括																							
営業収益	2,249	4,003	5,854	3,422	3,165	3,859	3,359	4,590	1,518	2,748	3,248	4,042	3,863	3,771	2,471	3,149	2,104	1,885	59,300	3,294			
広告料収入	922	1,831	2,380	2,405	1,943	1,665	1,794	2,059	749	1,013	1,534	2,471	1,843	1,511	945	1,537	1,357	789	28,747	1,597			
入場料収入	660	788	1,982	347	466	857	571	958	422	650	539	756	592	856	486	505	242	535	12,212	678			
Jリーグ配分金	203	222	263	205	201	205	228	226	191	210	222	204	238	232	211	219	202	222	3,904	217			
アカデミー関連収入	96	266	16	164	66	424	171	464	47	165	316	228	138	0	247	93	58	72	3,031	168			
その他収入	368	896	1,213	301	489	708	595	883	109	710	637	383	1,052	1,172	582	796	245	267	11,406	634			
営業費用	2,377	3,975	5,642	3,423	3,195	3,822	3,288	4,584	1,515	2,853	3,201	4,041	3,778	3,859	2,954	3,019	1,703	2,266	59,495	3,305			
チーム人件費	1,141	1,562	2,054	1,720	2,059	1,709	1,546	1,765	759	1,085	1,354	2,053	1,815	1,680	1,348	1,349	927	1,176	27,103	1,506			
試合関連経費	125	314	488	207	138	405	185	334	119	267	198	286	298	341	215	297	82	250	4,548	253			
トップチーム運営経費	194	295	404	561	209	376	269	508	175	377	220	434	242	679	439	299	195	120	5,996	333			
アカデミー運営経費	62	159	107	67	39	263	74	310	25	144	195	186	117	0	124	138	33	38	2,080	116			
女子チーム運営経費	44	0	84	0	0	0	0	0	0	48	0	0	0	0	0	0	0	0	176	10			
販売費および一般管理費	811	1,645	2,505	868	750	1,070	1,214	1,667	437	932	1,234	1,082	1,306	1,159	828	937	466	682	19,593	1,088			
営業利益	▲128	28	212	▲1	▲30	37	71	6	3	▲105	47	1	85	▲88	▲483	130	401	▲381	▲195	▲11			
営業外収益	24	3	11	20	34	3	5	1	15	153	13	30	3	1	18	11	8	23	376	21			
営業外費用	3	5	19	8	4	17	0	5	12	7	2	6	2	3	2	4	1	1	102	6			
経常利益	▲107	26	204	11	0	23	76	1	6	41	58	25	86	▲90	▲467	137	408	▲359	79	4			
特別利益	0	0	0	0	0	0	0	177	0	0	0	0	0	0	2,250	1	0	0	2,428	135			
特別損失	0	0	0	0	0	0	0	0	114	0	27	0	0	0	36	1	0	0	178	10			
税引前当期利益	▲107	26	204	11	0	23	76	179	▲108	41	31	25	86	▲90	1,747	137	408	▲359	2,330	129			
法人税および住民税	0	5	86	11	0	19	32	1	▲34	31	29	2	46	0	1	15	160	1	405	22			
当期純利益	▲107	21	118	0	0	4	44	178	▲74	10	2	23	40	▲90	1,746	122	248	▲360	1,925	107			
2. 貸借対照表																							
流動資産	718	1,135	687	383	229	1,678	782	1,288	303	690	413	163	1,112	493	330	944	999	381					
固定資産等	597	1,051	622	772	1,809	129	413	228	253	431	602	260	367	318	349	258	188	40					
資産の部 合計	1,315	2,186	1,309	1,155	2,038	1,807	1,195	1,516	556	1,121	1,015	423	1,479	811	679	1,202	1,187	421					
流動負債	418	475	469	494	1,041	379	426	1,394	295	646	376	199	1,214	645	238	414	378	406					
固定負債	323	100	102	651	0	0	90	121	40	10	140	186	56	71	318	40	17	13					
負債の部 合計	741	575	571	1,145	1,041	379	516	1,515	335	656	516	385	1,270	716	556	454	395	419					
資本金	454	1,570	160	100	100	1,092	349	99	367	712	550	400	10	315	98	220	409	890					
資本剰余金等	0	147	0	240	932	0	31	0	0	0	0	0	0	0	561	52	0	739					
利益剰余金	120	▲106	578	▲329	▲35	336	299	▲98	▲146	▲247	▲51	▲362	199	▲220	▲537	476	383	▲1,627					
資本(純資産)の部 合計	574	1,611	738	11	997	1,428	679	1	221	465	499	38	209	95	122	748	792	2					

(単位: 百万円、▲: 損失)

クラブ名	J2																				J2 総合計	J2 平均		
	札幌	山形	水戸	栃木	群馬	千葉	東京V	横浜FC	湘南	松本	富山	磐田	岐阜	京都	岡山	讃岐	愛媛	福岡	北九州	長崎			熊本	大分
決算月	2014年12月期	2015年1月期	2015年1月期	2015年1月期	2015年1月期	2015年1月期	2015年1月期	2015年1月期	2015年1月期	2015年1月期	2015年1月期	2015年3月期	2015年1月期	2014年12月期	2015年1月期	2015年1月期	2014年12月期	2015年1月期	2015年1月期	2015年1月期	2015年1月期	2015年1月期		
1. 損益総括																								
営業収益	1,328	1,399	518	941	555	2,300	1,220	1,042	1,121	1,185	735	3,027	831	1,761	1,103	584	576	947	747	894	750	1,006	24,570	1,117
広告料収入	589	276	167	516	261	1,537	561	558	453	431	422	1,583	380	1,136	472	213	272	334	308	502	289	493	11,753	534
入場料収入	390	183	88	137	79	315	187	167	225	295	80	374	140	229	161	104	60	192	79	101	135	249	3,970	180
Jリーグ配分金	103	105	92	91	90	98	92	89	93	101	90	101	95	100	101	92	108	96	90	98	100	96	2,121	96
アカデミー関連収入	31	0	45	67	3	65	174	44	0	5	57	159	89	138	84	46	50	210	64	35	22	41	1,429	65
その他収入	215	836	126	130	122	285	206	185	350	353	86	810	127	158	285	129	86	115	205	158	204	127	5,297	241
営業費用	1,374	1,446	548	791	480	2,338	1,216	1,064	1,126	1,203	706	3,004	979	1,667	1,100	479	571	942	738	889	715	926	24,302	1,105
チーム人件費	430	463	235	292	168	1,065	346	493	452	443	299	1,352	503	695	499	180	257	417	284	335	276	349	9,832	447
試合関連経費	243	47	46	64	51	140	124	68	76	152	60	298	90	128	85	63	25	76	46	67	43	67	2,059	94
トップチーム運営経費	162	150	69	106	74	279	224	168	87	123	111	244	140	155	94	72	94	121	103	135	110	140	2,961	135
アカデミー運営経費	57	0	14	42	19	92	97	43	0	5	24	164	48	129	20	23	21	65	26	28	16	77	1,010	46
女子チーム運営経費	0	0	0	0	0	68	38	0	0	0	0	0	0	0	0	0	19	0	0	0	0	3	128	6
販売費および一般管理費	482	787	184	286	168	694	387	293	511	480	212	946	198	560	402	141	155	263	279	324	270	290	8,312	378
営業利益	▲46	▲47	▲30	151	75	▲38	4	▲23	▲5	▲18	29	23	▲148	94	3	105	5	5	5	5	35	80	267	12
営業外収益	97	21	2	0	5	4	3	1	11	27	1	29	2	19	1	3	0	13	0	0	7	18	264	12
営業外費用	7	9	1	1	0	7	2	3	3	0	0	6	1	41	3	2	0	6	1	3	1	4	101	5
経常利益	44	▲34	▲29	150	80	▲41	5	▲25	3	9	30	46	▲147	72	1	106	5	12	7	2	41	94	431	20
特別利益	12	45	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	87	0	0	0	0	0	0	0	0	0	152	7
特別損失	4	0	0	0	1	48	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	58	3
税引前当期利益	52	11	▲29	158	79	▲89	5	▲25	3	4	30	46	▲60	72	1	106	5	12	7	2	41	94	524	24
法人税および住民税	5	0	0	15	8	0	0	1	4	0	22	3	11	0	0	2	3	2	1	5	0	0	82	4
当期純利益	47	11	▲29	143	71	▲89	5	▲26	2	0	30	24	▲63	61	1	106	3	9	5	1	36	94	443	20
2. 貸借対照表																								
流動資産	659	300	165	371	175	369	409	199	241	206	238	691	205	941	530	153	107	137	162	112	191	594		
固定資産等	82	62	17	17	12	943	19	138	80	108	8	544	21	96	28	27	49	252	21	27	9	44		
資産の部 合計	741	363	182	388	187	1,313	428	337	321	314	246	1,235	226	1,037	558	180	156	389	183	139	200	638		
流動負債	216	333	130	279	159	576	343	253	239	144	153	411	138	471	421	39	76	268	124	67	137	347		
固定負債	510	10	14	9	0	287	60	77	60	3	8	62	0	32	10	4	0	39	37	0	26	134		
負債の部 合計	726																							

クラブ名	J3												JFL(参考)	
	盛岡	秋田	福島	町田	YS横浜	相模原	長野	金沢	藤枝	鳥取	琉球	総合計	平均	山口
決算月	2015年1月期	2015年1月期	2015年1月期	2015年1月期	2015年3月期	2015年1月期	2014年12月期	2015年1月期	2015年1月期	2015年1月期	2015年1月期			2015年1月期
1. 損益総括														
営業収益	163	216	311	363	179	199	426	302	126	460	233	2,979	271	156
広告料収入	94	116	184	226	36	138	287	192	72	241	114	1,700	155	108
入場料収入	11	8	16	42	12	27	51	20	10	53	15	265	24	12
Jリーグ配分金	13	12	12	12	12	11	13	12	11	12	11	131	12	0
アカデミー関連収入	22	34	28	6	91	5	17	28	0	46	33	310	28	2
その他収入	23	46	71	77	28	18	58	50	33	108	60	572	52	35
営業費用	166	263	310	357	195	197	418	349	163	547	271	3,236	294	194
チーム人件費	61	92	98	120	18	52	192	170	24	162	76	1,065	97	42
試合関連経費	12	6	40	31	12	19	14	19	19	25	19	217	20	12
トップチーム運営経費	40	35	40	50	25	28	48	42	27	39	49	423	38	44
アカデミー運営経費	7	17	12	4	32	0	23	20	0	30	17	161	15	4
女子チーム運営経費	0	0	0	0	3	0	13	0	0	0	0	16	1	0
販売費および一般管理費	46	112	120	152	105	98	128	99	93	291	109	1,353	123	93
営業利益	▲3	▲47	1	6	▲16	2	8	▲47	▲37	▲87	▲38	▲257	▲23	▲38
営業外収益	5	47	1	1	1	6	0	44	4	0	3	112	10	2
営業外費用	1	2	0	2	0	0	0	0	0	8	0	13	1	1
経常利益	1	▲1	2	5	▲15	8	8	▲3	▲33	▲95	▲35	▲158	▲14	▲37
特別利益	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3	0	0
特別損失	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	1	0
税引前当期利益	1	1	2	5	▲15	0	8	▲3	▲33	▲94	▲35	▲163	▲15	▲37
法人税および住民税	0	0	1	1	0	0	0	0	1	1	1	5	0	0
当期純利益	1	1	1	4	▲15	0	8	▲3	▲34	▲95	▲36	▲168	▲15	▲38
2. 貸借対照表														
資産	35	19	64	121	31	54	81	100	35	43	56			81
流動資産	16	15	5	100	9	6	5	15	65	420	8			7
固定資産等	19	4	59	21	22	48	76	85	30	1	48			74
資産の部 合計	51	34	69	221	40	60	86	115	100	463	64			89
負債	29	10	25	27	39	48	53	71	69	229	57			79
流動負債	11	71	4	120	0	2	0	5	251	0	0			0
固定負債	18	61	21	7	39	46	53	66	44	229	57			79
負債の部 合計	40	81	29	147	39	50	53	71	74	480	57			79
資本	62	96	39	167	-	19	79	100	116	172	120			67
資本金	0	0	0	120	-	0	14	0	113	108	0			0
資本剰余金等	▲51	▲143	1	▲213	-	▲9	▲60	▲56	▲203	▲297	▲113			▲57
資本(純資産)の部 合計	11	▲47	40	74	1	10	33	44	26	▲17	7			10

【注】※ 端数処理の影響で合計値が一部、一致しないところがある。総合計数値は、各クラブの百万円単位の金額を単純に合計したものである。

※ 上記数値はクラブ運営法人単体の数値であるため、アカデミー(育成・普及)事業を、クラブ運営法人と直接関係のあるNPO法人や一般社団法人に移管している場合には、アカデミー関連収入および費用が上記数値に含まれないことがある。

※ 固定資産等の区分には、繰延資産も含めて表示している。

備考: 2005会計年度分より、クラブ別の個別情報を発表している。06会計年度分からは、全クラブの全ての項目を開示。

Jリーグクラブライセンス制度の振り返り

Jリーグクラブ経営戦略部 クラブライセンス事務局
クラブライセンスマネージャー 青影 宜典

Jリーグクラブライセンス制度を導入した2012シーズン当時、特に財務基準の内容はクラブの成長に向けた投資意欲をそぎ、同制度の基準をクリアするためにコスト削減、守りの経営、それによる縮小均衡、フットボールの魅力の低下を招くのではないかと懸念の声もあった。

しかしながら、導入後3年間で単年度赤字クラブの数は10クラブ減少し、3期連続赤字や債務超過のクラブはなくなるなど、目的の一つであったクラブ経営の健全化が加速した。一方、営業収入は2011年度の728億円が14年度は838億円と約100億円の増加。営業費用も同じく約100億

円増加した。さらに入場料収入が約20億円、チーム人件費が約40億円の増加。財源確保、収入規模も拡大し、魅力あるフットボールクラブづくりへの投資となるチーム人件費も着実に増加傾向にある。

もちろん、これで満足すべきものではなく、各クラブは経営の健全化を促進しつつ、チーム強化や将来への投資のために収入増を図り、身の丈を大きくする努力を続けている。

ブータンで国際貢献活動を実施。 Jクラブのユニフォームを子どもたちに寄付



ティンブー市、パロ市(写真)で、それぞれ約200人の子どもたちにカラフルなユニフォームが寄付された

©Jリーグ

Jリーグは7月3、4日、ブータンサッカー連盟の協力のもと、日本のサポーターから送られたJクラブのユニフォームを、首都ティンブー市とパロ市でそれぞれ約200人の子どもたちに寄付した。寄付が行われた両市のサッカー場では、サッカー教室も実施。早速、ユニフォームに袖を通した子どもたちは、目を輝かせながらボールを蹴った。

ユニフォームの募集はブータン側との調整で300枚としていたが、サポーターの多大な協力によって、700枚以上が寄せられた。同国ではそのうち412枚を寄付し、残る約300枚については今後、他のアジアの国で子どもたちに届けるべく調整を行っている。

この取り組みは、「スポーツ・フォー・トゥモロー認定プログラム」として行われた。Jリーグ

のスポーツ振興パートナーである独立行政法人日本スポーツ振興センターが事務局を担う「スポーツ・フォー・トゥモロー」の運営委員会で、6月に公益社団法人日本プロサッカーリーグ(Jリーグ)のスポーツ・フォー・トゥモロー・コンソーシアム会員加盟が承認されたこともあり、ユニフォーム寄付やサッカー教室実施が認定プログラムとなった。

なお、スポーツ・フォー・トゥモローとは、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催国として、14~20年の7年間に開発途上国など100カ国以上で1000万人を対象として、あらゆる世代にスポーツの価値とオリンピック・パラリンピック・ムーブメントを広げていく取り組み。同コンソーシアムには現在、72団体が加盟している。

2015年 Jリーグトップパートナー

Jリーグは、イオンリテール株式会社とJリーグトップパートナー契約を締結することを決定した。

カテゴリー/契約社名	契約区分	契約開始年
Jリーグトップパートナー		
イオンリテール株式会社	新規	2015年~

【参考】2015年契約決定済みのJリーグオフィシャルパートナーおよびJリーグアソシエイト

カテゴリー/契約社名	契約区分	契約開始年
Jリーグタイトルパートナー		
明治安田生命保険相互会社	新規	2015年~
Jリーグトップパートナー		
キヤノン株式会社/キヤノンマーケティングジャパン株式会社	継続	1996年~
株式会社アイデム	継続	2005年~
日本コカ・コーラ株式会社	継続	2009年~
株式会社ジェーシービー	継続	2012年~
明治安田生命保険相互会社	継続	2014年~
ルートインジャパン株式会社	新規	2015年~
株式会社コロブラ	新規	2015年~
株式会社ECC	新規	2015年~
イオンリテール株式会社	新規	2015年~
Jリーグ百年構想パートナー		
朝日新聞社	継続	2003年~
スーパーカップスポンサー		
富士ゼロックス株式会社	継続	1994年~
Jリーグオフィシャルチケットングパートナー		
びあ株式会社	継続	2012年~
スポーツ振興パートナー		
独立行政法人日本スポーツ振興センター	継続	2003年~
Jリーグアソシエイト		
日本航空株式会社	新規	2015年~
リーグカップスポンサー		
ヤマザキナビスコ株式会社	契約期間中	1992年~
Jリーグオフィシャルエクイップメントパートナー		
アディダス ジャパン株式会社	契約期間中	2005年~
株式会社モルテン	契約期間中	1993年~
Jリーグオフィシャルブロードキャストパートナー		
スカパーJSAT株式会社	契約期間中	2007年~

*アディダス ジャパン株式会社/株式会社モルテンは2014年からのJ3リーグオフィシャルパートナー契約を含む
*スカパーJSAT株式会社は2014年からのJ3リーグオフィシャルブロードキャストパートナー契約を含む
*独立行政法人日本スポーツ振興センターは2014年からのスポーツ振興パートナー(J3)契約を含む

アドバイザー契約締結

Jリーグは7月21日に開催した理事会で、梅澤高明、富山和彦、夏野剛、西内啓、堀江貴文の各氏とアドバイザー契約を締結することを承認した。今回の契約締結により、各アドバイザーよりJリーグが推進する各プロジェクトへの助言や提言をいただく。

アドバイザー (敬称略、五十音順)	
梅澤 高明(うめざわ たかあき)	A.T.カーニー株式会社 日本法人会長 パートナー(ニューヨークオフィス)
富山 和彦(とやま かずひこ)	株式会社経営共創基盤(IGPI) 代表取締役CEO
夏野 剛(なつの たけし)	慶應義塾大学 政策・メディア研究科 特別招聘教授
西内 啓(にしうち ひろむ)	株式会社データビークル 取締役製品担当
堀江 貴文(ほりえ たかふみ)	SNS株式会社 オーナー兼従業員

レノファ山口FCのホームタウン追加

Jリーグは7月21日に開催した理事会で、レノファ山口FCのホームタウン追加を承認した。2015年7月21日より、従来の山口市、下関市、山陽小野田市に加えて、宇部市を新たにホームタウンとする。

レノファ山口FC ホームタウン ※下線・太文字は追加された市	
変更前	山口市、下関市、山陽小野田市 を中心とする全県
変更後	山口市、下関市、山陽小野田市、 宇部市 を中心とする全県



6月度の月間ベストゴール、月間MVPが決定

各月の明治安田生命J1リーグで最も優れたゴールを表彰する「月間ベストゴール」の6月度受賞ゴールに、サンフレッチェ広島島のMF青山敏弘が1stステージ第17節のサガン鳥栖戦(6月27日)で60分に決めた得点を選ばれた。月間ベストゴールは、年間で最も優れたゴールに与えられる「年間最優秀ゴール賞」のノミネートゴールとなり、同賞は12月に行われる2015 Jリーグアウォーズで表彰される。

また、各月の明治安田J1・J2で最も活躍した選手を表彰する「明治安田生命 Jリーグ コカ・コーラ 月間 MVP」の6月度受賞選手に、J1は浦和レッズのFW武藤雄樹、J2は大宮アルディージャのMF家長昭博が選出された。受賞選手には賞金として、J1は30万円、J2は20万円が授与される。



©JLEAGUE PHOTOS
右足で見事なボレーシュートを決めた鳥栖戦の青山



©JLEAGUE PHOTOS
武藤は浦和の1stステージ無敗優勝に大きく貢献



©JLEAGUE PHOTOS
家長も大宮の首位快走の原動力として不可欠の存在

スルガカップ 2015 静岡国際ユース(U-15)サッカー大会を後援

Jリーグは7月21日に開催した理事会で、2015年10月10日(土)~12日(月)に静岡県小笠山総合運動公園(エコパスタジアム、補助競技場)で開催される「スルガカップ 2015 静岡国際ユース(U-15)サッカー大会」(主催:静岡ゴールデンサッカーアカデミー実行委員会、一般財団法人静岡県サッカー協会)を後援することを決定した。同大会は、5年後の東京オリンピックを視野に入れた選手の育成と、海外強豪クラブのチーム指導者との交流を通じ、国際交流・異文化交流の促進を目的に行われる。

U-12ジュニアサッカーワールドチャレンジ2015を後援

Jリーグは7月21日に開催した理事会で、8月27日(木)~30日(日)に東京ヴェルディグラウンド、味の素フィールド西が丘で開催される「U-12ジュニアサッカーワールドチャレンジ2015」(主催:U-12ジュニアサッカーワールドチャレンジ2015実行委員会、公益財団法人東京都サッカー協会)を後援することを決定した。同大会は、海外クラブのU-12世代との対戦機会を創出し、日本サッカー並びにJクラブ4種世代の底上げを図るとともに、国際交流を推進することを目的に行われる。

第21回日本電動車椅子サッカー選手権大会を後援

Jリーグは7月21日に開催した理事会で、2015年10月3日(土)~4日(日)に静岡県小笠山総合運動公園 エコパアリーナで開催される「第21回日本電動車椅子サッカー選手権大会」(主催:日本電動車椅子サッカー協会)を後援することを決定した。この大会は、日本国内において、電動車椅子サッカーの普及振興を図ることを目的に行われる。